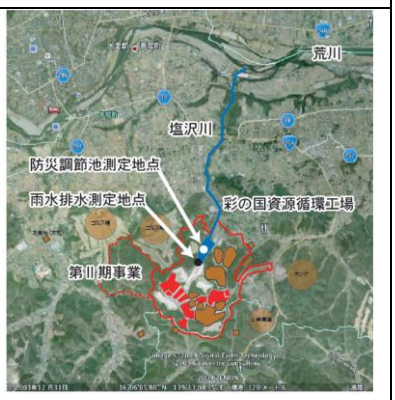
高木基金　成果発表会配付資料

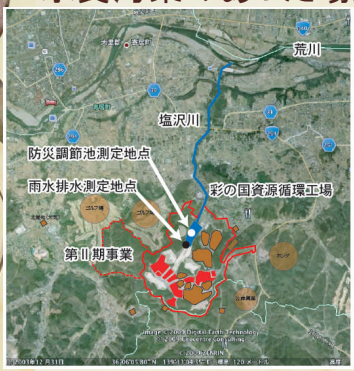
グループ名 ・代表者名	彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば 加藤　晶子	助成金額	４０万円
助成のテーマ	彩の国資源循環工場による環境汚染調査		

調査研究等のテーマに関する背景説明

問題の概要	・広域で複合、大型の産業廃棄物中間処理施設を１カ所で行うことによる、周辺環境への影響。 埼玉県が全面関与による高度な技術をうたい、主な地場産業もない地元への交付金や事業税などによる地元対策も万全。周辺を山に囲まれているのでわかりにくいが、各地で問題になっている廃棄物施設が各種そろっている。 ・現在は、一見何も問題ないのだが“微量・広範囲・長期間”という現代の公害の特徴を兼ね備えており、早期に環境問題を明らかにし、提言することで、周辺への環境影響を最小限にし、次世代や今のわたしたちの健康を守りたい。
問題の原因など	この施設群は、埼玉県・寄居町・地元協議会・各企業の４者によって運営協定が結ばれており、それによると、“寄居町・地元協議会・住民等に損害を与えた場合は、埼玉県と各企業が連係して法令に定める補償等の措置を行い、誠意を持って解決する“とある。 また、“測定・検査の結果に異常を認めたときは、直ちに操業を停止し、埼玉県を通じて寄居町及び地元協議会に通報するとともに、原因を究明して必要な措置をとる。”とあるが、2006 年に起きた雨水排水へ鉛流出したときも、ダイオキシン値環境基準を２回超えても、操業を停止しなかった。 ダイオキシン基準値超えについて埼玉県の環境調査評価委員会が２回開催されたが原因は特定できず、現在までうやむやのままである。
問題の経過	2005 年 1 月から順次操業 2006 年 10 月 本格稼働（グランドオープン） 2006 年 9 月 雨水排水へ鉛基準の 27 倍・ホウ素基準値超え 10 月 原因がオリックス資源循環のガス化溶融炉と判明。 11 月 埼玉県と事業者による寄居町・地元協議会へ報告。しかし、そこで情報はストップ。翌年２月新聞ざたになり、公表。その間､オリックス資源循環によるガス化溶融炉は操業を続けており、埼玉県・寄居町・地元協議会はそれを黙認。 2006 年 10･12 月 防災調節池のダイオキシン値 環境基準超え 2007 年 5 月　防災調節池の水素イオン濃度（pH）環境基準値超え
位置関係	
争点	・ この施設群はそもそも、施設内で排水を循環させる「クローズドシステム」という方式で、排水はいっさい建物の外部へ出ないはずだったのが、“雨水排水”という形で外部に出た。（施設の問題） ・ 環境影響評価そのものの問題が多々ある。昔から言われている「アワセメント」と何ら変わらない状況で、公共事業をしたいがために環境影響評価を行い、そのアセスが免罪符の役目を果たしてしまっており、現場の環境をできるだけ残す、影響を少なくするという、本来の目的から大きくはずれてしまっている。（法的問題） ・ 地元協議会が住民を代表しているが、住民にとって不幸なことにこれがさらに問題を見えにくくしている。つまり各協議会に多額の交付金が毎年埼玉県や寄居町を通して支払われており、会議は年一度の連合総会とその後の食事会を兼ねた各総会。また年に１度の観光を兼ねた視察旅行などによって、ものが言いにくい作用を果たしてしまっている（私本人が協議会員だった）。しかも構成メンバーは公募制ではなく区長など３役が自動的になり、そこに問題意識を持った専門家も招聘されていない（人的問題） ・ 埼玉県と各企業による環境測定も定期的に行われているが、両者ともこの場合事業者側であり、同一試料の第三者によるクロスチェックなどが行われていない。（測定者の問題） ・ 以前の鉛やダイオキシンの問題の時は、新聞社会面一面トップになるなど世論も動いたが、現在は沈静化している。地元の住民（協議会員含む）の中には、異臭など感じ不安に思っている人たちもいる。
ねらい	このとき問題になった水質汚染は、上記“クローズドシステム”ということから、当初予測していなかった。また、行政の調査や原因解明について不審な点がうかがえるので、市民である自分たちで調査し、その実態を知ろうというものである。その結果は広く公表し、また行政に訴える材料としたい。

出ないはずの排水から汚染

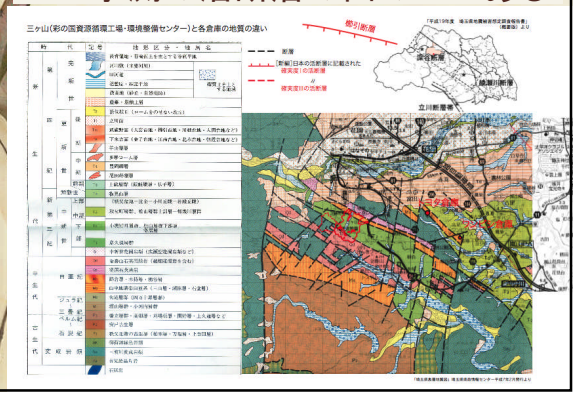
水質汚染のあった場所



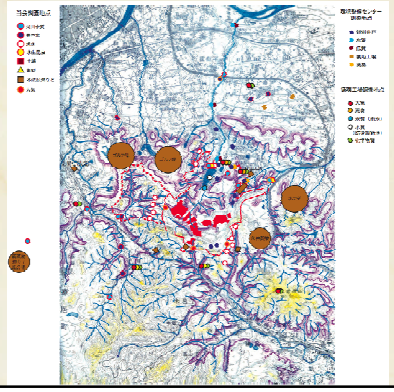
- 鉛・ホウ素：
  雨水排水測定地点
- ダイオキシン類：
  防災調節池
- 水素イオン濃度(pH)：
  同　上

地質専門家による学習会

M7.5予測の活断層の面の上にある

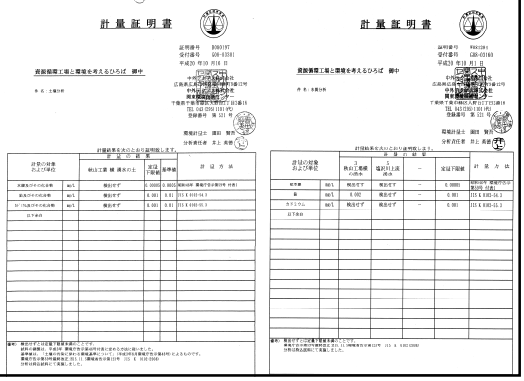


水系図と各調査地点・各汚染源



湧水の様子

湧水と土壌の重金属類測定結果（公定法）



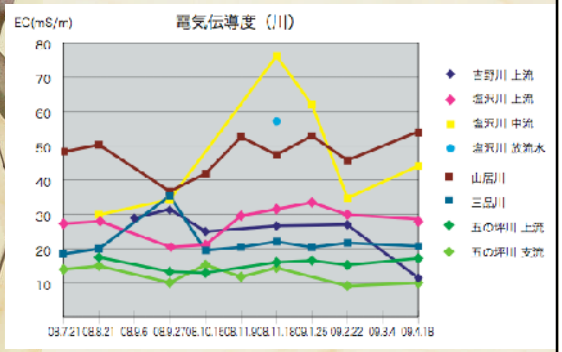
計量証明書

資源循環工場と環境を考えるひろば　御中

計量証明書

資源循環工場と環境を考えるひろば　御中

周辺河川の電気伝導度



グループ(個人)のプロフィール

連絡先など	住所・所在地	埼玉県大里郡寄居町西ノ入 2243		
	連絡担当者	加藤　晶子		
	電話・FAX・携帯			
	E-mail・URL	http://www.ecohiroba.net		
グループの特色	生活クラブ生協を母体とする地元の「市民ネット」から 2005 年独立。 昨年主要メンバーが脱退したため、水質調査活動は、残りの主要会員など 3 人で行い、その他調査などイベント時はその他会員、生活クラブ員、「市民ネット」「グリーンアクションさいたま」と協働。グリーンアクションさいたまや市民ネット、生活クラブと協催する調査や学習会も多い。その他、他団体、運動家に教えを請い、調査活動や運動の仕方などに活かしている。			
これまでの活動経過・研究実績	・ 松葉によるダイオキシン類・重金属類測定 ・ ソメイヨシノの異常花調査 ・ アサガオによる光化学スモッグ調査 ・ 水生昆虫調査 ・ 水質調査（河川・井戸水・湧水） ・ 第Ⅱ期事業予定地探索会			
グループの組織基盤・財政状況	決算/事業報告	あり	会員組織	あり
	会報など	あり	発行サイクル	3 回
	会員･支援者数	会員：14 人　支援者：多数		
	年間の予算規模	約 40 万円		
	主な収入内訳	高木基金助成 フリーマーケット 寄付	主な支出内訳	調査用品 外部調査委託費 外部協力者謝礼
主要ﾒﾝﾊﾞｰ	（公開できません）			
協力を受けている研究者	◎大沼淳二先生 関口鉄夫先生 依田彦三郎先生　など			
協力して活動している団体など	◎ グリーンアクションさいたま ◎ 第Ⅱ期事業を考える会 生活クラブ生協 市民ネット　など多数			
その他	松葉によるダイオキシン類・重金属類については 2009 年度からは生活クラブ生協が行う。 大気・悪臭問題については今回触れていないが今後、大気・悪臭についても調査活動を広げたい。 　高木基金のおかげで、各専門家の協力が得られ、地元の方にもしっかりした助成団体が支援しているということで、協力を得やすくなっています。この場を借りて感謝申し上げます。 また、このように発表するために資料をまとめることで、ただ、目の前の現象を追いかけていたものが、少し広く客観的な視点が得られるようになりつつあります。一般市民が身の回りの現象について科学的に分析するノウハウを得る必要があると実感しています。			

参考文献・ウェブサイトなど

・「彩の国資源循環工場整備事業　事業記録」発行：埼玉県政情報センター　平成 14 年 11 月

・ ダイオキシン基準値超えについて「彩の国資源循環工場環境調査評価委員会」

- http://www.pref.saitama.lg.jp/A09/BC01/jyunkan/sokuho/assesscommittee1.pdf
- http://www.pref.saitama.lg.jp/A09/BC01/jyunkan/sokuho/assesscommittee3.pdf

・ 水素イオン濃度基準値超えについて「彩の国資源循環工場環境調査評価委員会」

- http://www.pref.saitama.lg.jp/A09/BC01/jyunkan/sokuho/assesscommittee2.pdf